

保護施設のイメージと殺処分数は関係あるのか

3年1組13番 桑田 叶馨
3年3組 2番 池田 丈志
3年3組37番 吉岡 翔

Keyword: 「保護犬」「シェルター(保護施設)」「殺処分」「ペットショップ」

1. はじめに

保護施設は「暗くて悲しい場所」という印象が強く、人々が訪れにくい。その結果、里親が見つかりにくくなり、殺処分数の増加につながる可能性があると考えた。

2. 序論

日本では毎年多くの犬や猫が保護施設に収容されていますが、すべての動物が新しい飼い主に出会えるわけではなく、一部は殺処分されてしまう現状があります。ニュースやテレビ番組などで取り上げられることもありますが、「殺処分」という言葉だけが印象に残り、実際にどのような施設でどのように保護されているのかを知る機会は少ないのが現状です。

日本の多くの動物保護施設は、コンクリートで囲まれた無機質な建物で、犬や猫がそれぞれのケージで飼育されています。そのため、見学や訪問に行く人にとっては少し暗く、入りにくい雰囲気があります。一方で、海外の先進的な施設では、明るく開放的で、子どもから大人までが楽しみながら動物と触れ合えるような工夫がされています。

この違いが「人々の動物保護への関心」や「殺処分数」にどのように影響しているのか、また、日本にも明るく訪れやすい施設はあるのかに関心を持ちました。実際に私たちは、生駒市にあるピースワンコ・ジャパンを訪問し、施設の方にお話を伺いました。本研究では、「保護施設のイメージ」と「殺処分数」の関係について考え、より多くの人に動物保護に関心を持ってもらうためには何が必要かを探っていきます。

3. 本論

環境省の統計によると、日本で殺処分される犬・猫は年々減少傾向にある。2004年度には約40万頭が処分されていたが、2023年度には約2万頭程度にまで減少したが、いまだに「不要になった」、「もう飼えなくなった」という理由で持ち込まれることが多い。

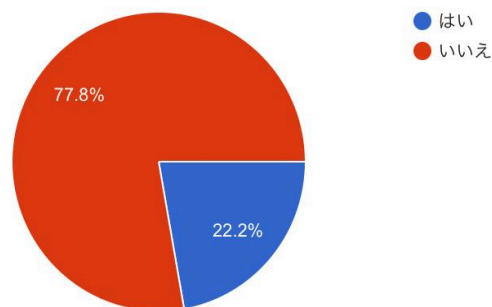
日本での動物殺処分は、主に迷子や飼育放棄された犬猫を対象に行われている。殺処分の主な理由は、「飼い主による持ち込み」、「元ペットの野良化」などがある。特に飼い主の高齢化や、引っ越しなどの家庭の事情により飼育が続けられなくなることが原因となっているケースが多い。また、テレビやSNSなどで可愛い動物たちが話題になると、一時的にその動物と同じ種類をペットとして欲しがることが増え飼育を始める人は増えるが一緒に暮らして成長していくうちに「なんか思っていたのと違う」と感じてしまい飼育を手放してしまうこともあり、こうした飼育文化が、殺処分問題を引き起こる引き金でもあるといえる。

最近では、多くの保護施設や動物愛護センターでは「殺処分ゼロ」を目標に掲げ積極的に活動を行っている。そして、その保護施設の活動について調べていく中で生駒市にあるピースワンコ・ジャパンという保護施設を見つけ、そこで話を伺い、質問をさせていただくことに承諾を得たので、訪問をする前に学校内で動物の保護や殺処分問題に対する意識を知るために学校で99人を対象にアンケートを行うことにした。まず、「保護施設に訪れることに抵抗があるか」という問いには、約78%が「いいえ」と回答し、抵抗を感じない

人が多数を占めていた。一方、「保護施設のイメージ」を尋ねる設問では、「少しかわいそうで悲しい気持ちになる場所」が37.4%、「飼い主がいない動物がいて少し暗い感じがする場所」が31.3%とネガティブな印象を持っている回答が目立っていることがわかり、「あたたかくて動物たちが安心できる場所」とこ食べた人が12.1%にとどまり、ポジティブなイメージを持ってもらうためにはまだ多くの課題があることがわかった。また、「動物問題についての認知度」については、「知っている・ある程度は知っている」という回答は合わせて56.6%であるのに対して、「知らない・ほとんど知らない」と答えは10.1%と情報や理解にばらつきがあることが見られた。「知っている動物問題」についての設問では、「動物虐待」が89.9%、「捨て犬・捨て猫」が88.9%や、「多頭飼育崩壊」が58.6%と高い認識で、「特に知らない」という答えは6.1%と少なく多くの人が動物問題を認知していることがわかった。最後に、「ペットショップのような明るい保護施設になれば来訪者は増えると思うか」の問いには85.9%が「増える」と答えており、施設の雰囲気や情報発信を見直すことで多くの人の関心が高まるのではないかと考えた。この回答結果をまとめ、ピースワンコ・ジャパンを訪ねて、職員の方にアンケートの回答を見て感じたことや、保護犬・猫の存在を多くの人に知ってもらうための工夫や、どのような雰囲気の保護施設を目指していきたいのかについての質問をさせていただいた後に、殺処分の理由や活動の内容、殺処分の方法、ペットショップに対して思っていること、海外で行われている殺処分数を減らすための対策方法、そして今後の目標について話を伺うことができた。また、保護施設で引き取る場合は引き取り手の人たちへの支援や家に過ごしていく中でも保護施設のスタッフの方と連絡をとって相談もできるので、ペットショップでから引き取るよりもまず保護施設に見に来て引き取るかを検討すること考えることも大切だということもわかった。

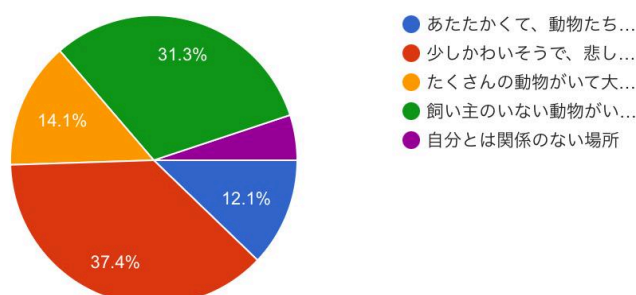
保護施設に訪れることに抵抗はありますか？

99 件の回答



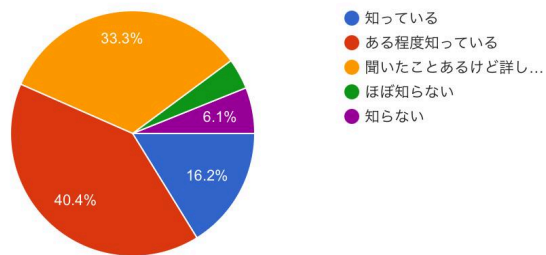
保護施設に対してどのようなイメージを持っていますか？（いちばん近いものを選んでください）

99 件の回答



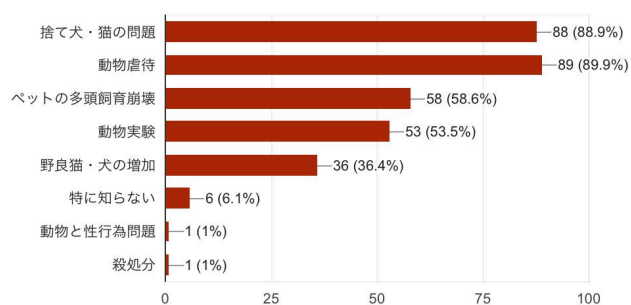
動物問題について知っていますか？

99 件の回答



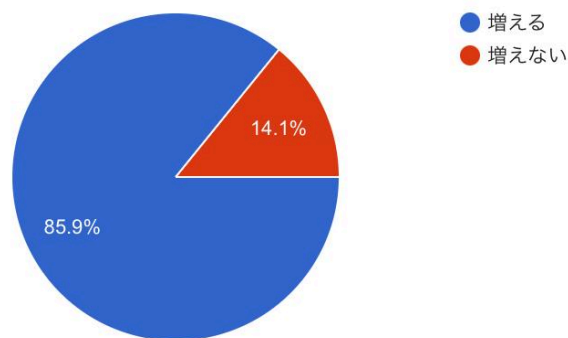
知っている動物問題はどれですか？(複数可)

99 件の回答



ペットショップのように明るい保護施設になれば、訪れる人は増えると思いますか？

99 件の回答



4. 結論

結論として、動物保護施設に対する印象を改善するためには、まだたくさんの課題があることがわかり、殺処分を減らすためには多くの人に保護施設の活動や取り組みなどを知ってもらい、ペットショップへ行く前にまず、保護施設へ足を運んで、保護されている犬や猫たちを引き取ることを考えてもらうことが、殺処分数を減らすためには重要だと考えた。

5. おわりに

最終的には、動物保護施設のイメージと殺処分の数には関係があるかはわからないまま終わってしまうという形になってしまったが、周りの人が持っている保護施設へのイメージや、保護施設で行っている保護犬・猫の新しい里親を見つけるための活動や、イメージをよく保っておくための工夫や情報発信の重要性をこの探究を通して学ぶことができた。

6. 参考文献

(1) 環境省.犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況.

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html

(2) ピースワンコジャパン.

<https://wanko.peace-winds.org/facility/ikoma>